

## 地域の概況

- (1) 校区は砺波平野の東端に位置し、平地から山間部に広がる。校区は下記の4地区からなり、校区全体の面積は砺波市の約30%を占める。
- ① 校区には交通量の多い国道や県道が走り、農業用水路も多い。平成23年に国道359号線のバイパス道路となる「となみ野大橋」が開通し、現在、その延長として「いきるぎの大橋」が建設中である。般若地内において通行する車輛が増えてきており、その周辺地域の交通量増加や建設工事のため、通学路の変更や見直しを行うなど、登下校の安全に十分に配慮している。
  - ② 校区が広範囲で地理的環境も異なるため、地区により生活や文化にやや違いが見られる。地域の人々は人情が厚く、学校教育にも関心・理解があり協力的である。3世帯同居の家庭が多数を占め、両親共働きが多い。

地区\項目	面積 (km)	人口	世帯数	児童数
般若	8.65	1,882	588	84
東般若	4.88	1,387	414	74
梅檀野	9.46	1,227	377	41
梅檀山	14.45	419	162	14
合計	37.44	4,915	1,541	213

(H29.5.1)

- (2) 豊かな自然に囲まれ、史跡や体育的施設等も多く、最適な教育環境である。

## 学校の概況

本校は般若、東般若、梅檀野、梅檀山の4地区の統合校（般若、梅檀山は先に統合）であり、今年が開校36年目である。

- (1) 主要施設
  - ・敷地33,457㎡
  - ・校舎(延)4,322㎡
  - ・運動場16,657㎡
  - ・体育館1,416㎡
  - ・プール375㎡
- (2) 学級編制  
児童数は213名で、11学級（内特別支援学級2学級を含む）編制である。
- (3) 通学の状況  
校区が広範囲であるため、スクールバスや市営バスによる遠距離通学児童が、約54%を占めている。
  - ① スクールバス利用児童（東般若、梅檀野地区児童）・・・101名
  - ② 市営バス利用児童（梅檀山地区児童）・・・14名
- (4) 児童の実態
  - ① 学習面では、授業改善に努めたことで、主体的に学習に取り組む様子がみられたり、学力調査やチャレンジテストの達成率等が向上したりするなど、少し成果が上がってきた。しかし、県平均に届かない教科もあり、学習内容が定着しているとはいえない。家庭学習では、指示さ

れた宿題はするが、自主学習に取り組むことについては児童の差が大きい。また、学習時間の確保の難しい児童もいる。

今後は、「話す」「聞く」について学年に応じた指導を行い、学び合いができる集団をつくったり、家庭学習強調週間を設定し、保護者の協力を得て家庭学習の習慣化を図ったりして、学力向上を目指す。

- ② 学校行事を児童の主体性を育てる場として取り組んできた。児童は、運動会の団活動や学習発表会での自主発表「庄東ショートショー」等を通して、自分から進んで活動に取り組むようになってきた。それを生かし、昨年度から授業や児童会活動等、日常の学校生活において主体性を発揮できるよう働きかけている。
- ③ 児童は責任感があり、花や自然を慈しむ心をもつ児童が多い。縦集団としてのまとまりが育っており、給食や清掃、集団登校の際は、上級生が下級生の世話をしている姿がみられる。しかし、相手の気持ちを考えることができず、自己中心的な言動がみられる児童もいる。集団の中での役割を自覚し、互いに助け合う活動を工夫している。
- ④ 友達と誘い合って外で遊ぶ児童が多い。スポーツ少年団や地域のスポーツクラブへの加入率が高く、全校では約64%が加入している。これまでの「チャレンジ3015」の取組から、児童の運動の幅がさらに広がってきている。また、校舎内に常設してある「クライミングウォール」が日常的に活用され、握力の記録が向上してきた。今後は、自分で目標を設定し、進んで体力アップできるよう働きかけていく。

(5) 児童数の推移

年度別児童数 (H29.5.1現在) (人)

平成 \ 学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
21	41	35	27	41	36	33	213
22	36	40	36	27	41	35	215
23	40	36	41	36	27	41	221
24	30	40	35	40	35	27	207
25	40	30	40	34	40	36	220
26	34	40	31	42	34	39	220
27	26	35	40	31	41	34	207
28	41	28	35	41	31	40	216
29	39	41	27	35	41	30	213